

## テレビ番組と今回の授業～助産師としての役割について考えたこと

修士課程・助産学分野 藤野幸枝

このような貴重なお話を聞くことができ、改めて、生殖補助医療やジェンダーの問題、法の整備など多くのことを考えさせられました。

私は一人の女性として、また助産師として野田聖子さんの生き方や子育てについて大変関心があり、テレビで特集されたときも、その番組を見ていました。

私だけではなく周囲の助産師たちの間でも関心のある話題です。そして番組放送の後は、職場で話題になりました。

テレビ番組と今回の授業とでは、私の受け止め方が異なりました。

番組では表面しか見ていなかったことに気づきました。

女性大臣としての苦悩、女性としての生き方、子どもがいないことでの差別……考えたことがありませんでした。

私は助産師として、子どもの幸せに注目し、番組を観ていました。同僚の間では、野田さんに対して賛否両論でした。

妊娠初期から重症な奇形が発見されている状態で、妊娠継続し、育てること、これは、本当に「子どものため」なのだろうか、という厳しい意見も聞かれることも珍しくはありませんでした。私自身も、何が良いのか分からないというのが正直な気持ちでした。

助産学分野の授業では、生殖補助医療問題、里親制度、ジェンダーの問題など、女性の健康について話し合うことがよくあります。そして、法の整備が遅れていることも認識しています。このことは医療従事者であり専門職であるから、そして現在学生であるから深く考えるきっかけとなっています。

しかし、助産師として日々ハードな業務に追われ、重要なことだと思いつつも深く考えることなく。テレビやメディアの情報をそのまま受け入れていたのだと思いました。

このタイミングでこのような貴重な講演を聞かせていただき、助産師として今後、できることはないかと考えようと思いました。